

第1決算審査 特別委員会報告

委員長 松枝友久
副委員長 古賀泰弘
委員 中島征行
徳永豊
中島宗昭
松枝治幸

平成23年度大木町一般会計 歳入歳出決算の認定

平成23年度一般会計の歳入状況は、予算額に対して、収入増額は12,773,640円の増、執行率100.2%。現年度の町税の徴収率は98.3%であった。徴収率向上のため、さらに全力を尽くされるよう強く要望。

「総務課」

入札制度について、町内業者の育成、産業としての振興に配慮し受注機会が増えるよう二層の改革を願う。
ソフトウェア開発委託料、関連機器保守料、電算機器ソフトウェアリース代等で多額の費用がかかっている、工夫をして電算関係費用が下がるように要望。

「産業振興課」

自主防災会組織数41で組織率93.3%であり推進・努力をして100%となるよう要望。
地域防災計画の見直しのなかで、避難所を整理し職員の配置計画を含めた見直しを求めると共に、食料備蓄についても校区コミュニティセンターを利用した計画の早期立案を要望。
消防団員の確保が難しくなってきた。消防団員OBや地域の協力を得て組織作り

第2決算審査 特別委員会報告

「子ども未来課」

公費による3医療制度について、特にひとり親家庭等医療費が昨年度に比べ大幅に増加。公費医療費の支払いにあたっては、医療費の増減についても分析把握して、適正な予算編成に努めるよう要望。
保育園や子育て交流センター等建物の改修工事費で、工事部分に対しての工事保障を明確にするよう指摘。

「環境課」

環境衛生費では、合併処理浄化槽の維持管理費の個人負担を軽減する対策を講じることや、今回の水害時に排水先の側溝に土砂が堆積し、排水ができなくなったケースが見られ、その対策が必要なことを指摘。
新エネルギー事業費では、庁舎省エネ化のため庁舎屋上に10kwの太陽光発電設備の設置、庁舎の照明のLED照明化空調設備のインバーター制御による省エネ化を実現。
太陽光発電は補助金上限の見直しを検討するよう要望。
塵芥処理費では、町民の皆さんのご協力でごみ処理量は着実に減少している。

「学校教育課」

大溝小学校増改築工事にあたり、学校施設については、地域住民の集う場であり、災害時の防災施設も兼ねており、このような施設工事等がある場合、地域住民の意見を聴く場を設けるよう今後の取組方について指導。
中学校管理費では、部活動で遠征をする際、保護者の車を利用した場合、教育委員会としてどう指導されているか説明を求めた。事故等の場合も想定し、保険に加入する等ルール作りを行うよう指示。
家庭教育支援員の活動は、充実した内容のある活動で、今後も継続していくのであれば、後継者の育成も視野に入れ、予算措置を要求する。

「健康福祉課」

竣工後10数年を経過したアークアス、健康福祉棟の維持管理では今後、営繕費用の負担がより多く発生してくる旨を指摘。修繕や工事に関するリスク分担についても協議し、改善するよう要望。

「生涯学習課」

図書・文化拠点事業費、生涯学習まちづくり推進費では、町役場をはじめ、図書・情報センター、町総合体育館、子育て支援センターの各施設の利用効果を高めることを目的に、施設間を自由に移動できる通路と、来訪者が集い憩える場所として、こつぽーっとガーデンを整備し、合わせて総合体育館のトイレ等改修を行い、施設のバリアフリー化を図った。
図書館業務では、読書活動の指導と情報教育の観点から図書司書が5名いる利点を生かし、乳幼児から小学生までの読書活動に力を入れ、学校図書館との連携、司書間の意見交換等をはかり、子供の利用がもっと進むような読書量と質の向上を考えてもらいたいと要望。
こつぽーっとホールのイベントでは、こつぽーっとシネマの実施や児童の芸術文化体験事業を新たに実施、今後も事業の充実に努めるよう要望。
保健体育費では、町体育協会や関係団体との連携のもと、各年代層に応じた各種の大会が実施され、生涯スポーツの普及・振興に努めている。また総合型地域スポーツクラブを設立し、会員制のクラブとして健康づくり事業を行っている。

を検討するように要望。
クリークの消防水利は、行政でも調査し、町づくりの観点からも消防水利箇所整備が必要ではないかと提言。

「企画調整課」

全課で不用額が多い。財政担当から指示し、12月、3月で精査するよう要望。

掘削再生計画策定モデル事業には、計画性のある地域の掘削再生計画策定となるよう要望した。また、農地・水環境に取り組んでいない地区も何らかの施策が必要であると要望。
基金の積み立てが増えることは良いことではあるが、町民から要望が多い道路・水路などの社会資本の整備も重要なことである。国、県の補助事業に乗らない箇所の町単独事業費の増額を要望。

農地・水・環境保全向上対策事業費は、実施地区においては非常に良かった。地域づくりは大いに役に立ったとの意見があった。面積条件に限らず更にこの事業の推進を強く要望。
大木町商工会地域振興事業助成金、住宅改修補助事業については、好評であり経済効果もでている。継続されるよう要望。

「建設水道課」

補填及び賠償金は、請負業者の負担になるのではないかと安易に発注者が負担すべきものではないと思われる。近隣市町の対処事例の調査を望む。
クリーク管理保全対策費の10年ぐらいい前に法面にテスト工事したが、その後どうなったのか調査を望む。
地元業者の育成のため、受注機会が増えるように入札制度の見直し等を要望。
石丸山公園での犬の散歩時の糞の処理、鎖を繋いでの散歩等の看板の設置、又指導の徹底を望む。さらに木佐木小学校南の水辺公園の噴水は、夏場だけでも稼働できないか要望。大莞小学校南の水車が破損している。危険が無いように対処をお願いする。石丸山公園駐車場の無断駐車車の排除を徹底するよう要望。
町の住宅政策の具体策を要望。

町税の徴収率の向上を図るため、税務職員、健康福祉課保険医療係の全職員で、5月、12月に徴収を実施しているが、更に徴収をあげるために、もう一回増やす事を提案。

平成23年度の剰余金の処分

平成23年度大木町水道事業 会計剰余金の処分及び決算 認定

平成23年度の剰余金の処分

「税金町民課」

町税の徴収率の向上を図るため、税務職員、健康福祉課保険医療係の全職員で、5月、12月に徴収を実施しているが、更に徴収をあげるために、もう一回増やす事を提案。



石丸山公園水路工事

「現地視察」

23年度施工の「蛭池のいちごハウス」「石丸山公園水路工事」「福岡地区国営水路工事」「横溝本村地区国営水路工事」「八町牟田下道路改良工事」「県道水田大川線道路改良工事」を現地視察し、適切に運営されている現状を確認。
については、減債積立金に300万円と建設改良積立金に1000万円、合計4000万円の処分を行い、繰越利益剰余金8967万3773円を平成24年度に繰越する。
水道事業は恒久的な黒字決算となつているが、水道管の老朽化に伴う更新事業の整備計画を早急に策定するとともに、財政的に健全であるならば水道料金の引き下げを含めたところで財政計画を策定すること。また、漏水等の修繕体制についても維持管理に支障がないように検討するよう提言。



蛭池いちごハウス



県道水田大川線道路改良工事

「生涯学習課」

図書・文化拠点事業費、生涯学習まちづくり推進費では、町役場をはじめ、図書・情報センター、町総合体育館、子育て支援センターの各施設の利用効果を高めることを目的に、施設間を自由に移動できる通路と、来訪者が集い憩える場所として、こつぽーっとガーデンを整備し、合わせて総合体育館のトイレ等改修を行い、施設のバリアフリー化を図った。
図書館業務では、読書活動の指導と情報教育の観点から図書司書が5名いる利点を生かし、乳幼児から小学生までの読書活動に力を入れ、学校図書館との連携、司書間の意見交換等をはかり、子供の利用がもっと進むような読書量と質の向上を考えてもらいたいと要望。
こつぽーっとホールのイベントでは、こつぽーっとシネマの実施や児童の芸術文化体験事業を新たに実施、今後も事業の充実に努めるよう要望。
保健体育費では、町体育協会や関係団体との連携のもと、各年代層に応じた各種の大会が実施され、生涯スポーツの普及・振興に努めている。また総合型地域スポーツクラブを設立し、会員制のクラブとして健康づくり事業を行っている。

「大木町後期高齢者医療特別 会計歳入歳出決算の認定」

歳出で、総務費では後期高齢者医療特別会計の事務費の支出、後期高齢者医療広域連合納付金では、広域連合に保険料として支出しており、この特別会計のほとんどを占めている。
歳入では、後期高齢者医療費保険料、使用料及び賃借料、繰入金、費用負担等による一般会計からの繰入、諸収入は、利息による取入がなされている。



決算審査のようす